
隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第120号

-原田勉から引継いだ環境・農業・食べ物など情報の交流誌-

2003.10.23 (木) 発行 山崎農業研究所&編集同人

<新キーワード>

環境・農業・健康・食べ物などの情報提供、高齢者と若者、農村と都市の
交流ミニコミ誌。山崎農業研究所&『電子耕』編集同人が編集・発行。

http://www.taiyo-c.co.jp/public_html/yamazaki/yama_index.htm

*****発行部数 1680 部*****

□ 目次 □-----

<今週の提言>

天明飢饉に餓死者ゼロの米沢藩—『かてもの』復刻版に思う 松坂正次郎

<読者の声>橋渡さんから：長谷川さんから：丹羽さんから：Ya-san さんから

<舌耕のネタ>政治も自己責任・「老人党宣言」に賛同する 原田 勉

<山崎農業研究所情報>

◇山崎農業研究所現地研究会「速報」(その1) 安富六郎

◇『21世紀水危機—農からの発想』を読む(その4) 田口 均

<丹羽敏明の戦争体験>20、演芸中隊の発足

<中学生に環境問題をどう教えるか?・3>環境クラブ・増山博康

<農文協図書館情報>(10月20日更新) 原田太郎

<編集同人の近況報告>10月9日~10月22日

<今週の提言>天明飢饉に餓死者ゼロの米沢藩—『かてもの』復刻版に思う

ことは平成5年の大凶作(作況74)に次ぐ凶作の恐れが強い。自主米はブレンド米を中心に4~5割高となっているほか、コメ泥棒が各地に出没している。「飽食」時代に、果実やコメの泥棒がばっこしているのはどうしたわけか。

ところで天明3年(1783年)の凶作は減収率が73.3%に達し、奥羽諸藩の惨状は言語に絶したという。餓死するもの津軽藩81,702人、南部藩64,690人、仙台藩40,000人と伝えられるなかで、全く餓死者を出さなかった藩があった。上杉鷹山の米沢藩である。

この奇跡とも言うべき事情を示す文献が、このほど、山崎農研会員・大河原幸一さん(東置賜郡川西町在住、元NOSA I置賜OB)から届けられた。

『かてもの』（初版は享和2年＝1802年、その復刻版が昭和16年＝1941年に、再版が昭和49年＝1974年と平成5年＝1993年に刊行）と題した筆書きを板行したものを活字体で復刻したものだ。

「かてもの」とは救凶作物・食物のことで、昭和16年の復刻版の序文（登坂又蔵米沢市長）には「天明3年の凶饑に際し、荏戸善政（しとみと・よしまさ）が上杉鷹山の意向を体し、かて（糧）となる地域の草木を実際に試食して研究させた結果を自ら執筆し、享和2年に1,575冊を板行して広く領内に頒布したもの」とある。

昭和49年の復刻版のあと書きにはこう記してある。「『かてもの』（約80種の草木果実を選んである）刊行から時移り、“消費は美德”といわれるさなかに世界的食料危機の警告が発せられている。この書の内容が今日そのまま実用化出来るかは疑問だが、当時の為政者が深い思慮と英知で政治に当たったことに思いを至して見るべき時ではなかろうか」。

鷹山は品別「備籾倉」を創設して貯蔵しており、「かてもの」も利用させて餓死ゼロを実現したのだ。

松坂 正次郎
山崎農業研究所会員、コラムニスト
y.noken@taiyo-c.co.jp

<読者の声>

●10/07 橋渡良知さんから：

米泥棒について原田さんが書かれていました。米を盗むということは、他の農作物を盗ることとまたちがう今日的な意味があるようにも思います。圃場は開放的です。人倫がまっとうでこそ成り立つのが農業だと思います。どうすれば歯止めがかけられるのか。市中引きまわし、打ち首で止まるか……妄言です。

●10/09 長谷川さんから：

「桜隊原爆忌の会」の長谷川です。

心配していましたが皆さんのお力で『電子耕』が届き原田さんの『舌耕のネタ』も続いていて嬉しく思います。どうぞ無理なさらずにお大事になさってくださいませ。

私の住んでいるところは有名な梨の産地の隣接地で、毎年梨の季節が近づくと知り合いの農家をお願いして「豊水」の美味しい時期に親戚、友人に送ってもらっています。

しかし今年はその農家から、「冷夏で「豊水」は全滅、送ることが出来ない」と立派な梨のたくさん入った袋を持って言って来ました。こんな状態なので、責任を持って送れないということです。

見た目はとても立派で、美味しそうなのですが、食してみると1個の梨で甘みのばらつきがあり、中が透きとおっているものもあります。1年間丹精してここまで育ててきて、全滅とは慰める言葉もありませんでした。

昨日テレビで農薬を減らすために苦勞して育ててきた米に今年の天候のせいで、いもち病が出て涙を呑む思いで農薬散布に踏み切った農家の話をしていましたが、本当に大変だと思います。

毎年毎年天候、気象との戦い、カラス、猿、猪などの問題。その上、今年はあちこちで米泥棒や、梨、桃泥棒が横行しています。

苦勞して作った農産物を盗むなんて許せませんが、これも政治の貧困による結果かと思わざるをえません。

農業にもっと暖かい政治の手をと願わずにられません。

「夢のかけら」「桜隊」2つのHPやっと更新しました。お体にご負担でなければ見ていただけたら幸せです。

「夢のかけら」

<http://www.h3.dion.ne.jp/~nanchan/>

「桜隊」

<http://www.h6.dion.ne.jp/~skr-tai/>

●10/13 丹羽敏明さんから：

119号の配信ありがとうございました。

コメ泥棒の話の続きですが、今度は稲を刈り取って行ったという報道に唖然としました。写真で見るとコンバインを使ってきれいに刈り取ってあるではありませんか。納屋などの防犯装置が嚴重になったので、今度は収穫前の米を狙う

であろうことは、予想されたことであつたとは言え、まさかという気持ちがありました。これだけ見事にやっつてのけられるのは、プロとしか言いようがありません。それも盗人のプロではなく米作のプロです。それだけに情けない思いが募ります。同じ農家じゃありませんか。米作の苦勞、大変さはよく分かっているはずなのに、なぜだと言いたくなります。これは少女誘拐を常習にしている人間の心情と変わりないと思います。被害者の苦痛を慮れない自己中心の我利我利亡者の所業です。こういう人間が都会にも農村にもはびこるようになったのは、社会不安の結果です。その不安を払拭してくれる政治を行うのはどの政党なのか。選挙の結果が待たれます。

『虜囚のうた』のつづきです。

『み親待つわが故郷の春の辺を恋い侘びすぐす日毎作業に』
『ようやくに忘れて居りし内還の風評はまたも拡がりて来る』
『如何ばかり淋しかるらん母一人起き臥す母屋に雨の降る日は』
『久々に便り届ける嬉しさに二三度読みたり泣いて読みたり』
『夜作業の鉄板冷えて心地良し微熱の頬を押しあてて見る』
『塩汗を掌に拭いつつ陽盛りの山積みなせる鉄板に挑む』
『いささかの食に己が身を養えるこの苦しさもよしと思えり』
『裏街の異臭鼻つく塵埃を素手もて運べと指揮官吾は』
『たたかいは勝たざるべからず裏町のあくた集める哀れつわもの』
『いも恋しままならぬ身と知りつつも想い深みぬ更けし月の夜』
『証なき罪に問わるるも詮方なし抗弁立たぬ俘虜の身なれば』
『絶えてなき妻の便りを今宵よむ五年逢わぬ子等をしのびて』
『幾年か母亡き後を父上に甘えし妹は今宵輿入る』
『現身は悲しきものぞ支那街に芥とるとは思わざりけり』
『今日もまた雨季の朝の肌寒し濡れ衣まといて作業に出でゆく』
『わが祈り神に通ぜしものならむ昨夜も父と夢に語りぬ』
『車上より罵声あびせるチャイナ奴をにらみかえして歩みつづけり』
『夕食の粉味噌の味なつかしき祖国の香りこもりて居れば』
『陰膳を据えてお帰り待ちますと妻が便りに胸せまりけり』
『吾が衣袴のほころび縫いつつたらちねの母を偲びて涙こぼれぬ』

==-----

●10/15 Ya-san さんから：

日本のように食料自給率の異常に低い国では、

何かあれば農作物の盗難が起きるのは当然でしょう。
街中には当たり前のようにホームレスの人々があふれているのですから。

しかし、一条だけ青刈りされた田んぼを見れば、すでに国家権力が
農作物を盗んでいるのです。
東京近郊の家やビルに囲まれて、日当たり風通しの悪い田んぼ。
作る前から盗まれています。

農作物が盗まれるのは、この国では当たり前なのです。

○原田勉からコメント：

橋渡さん、長谷川さん、丹羽さん、ya-san さん 農作物泥棒についての<読者の声>ありがとうございました。ここのところ新聞の声欄にも投稿が続いて「人間を精神面で支える教育と栄養面で支える農をおろそかにすると、国は滅ぶ」という叫んでいます。

本当に日本の農業と国は今後どうなるのでしょうか、いろいろなご意見を寄せて世論を盛んにするようにお願い致します。

<舌耕のネタ>政治も自己責任・「老人党宣言」に賛同する

なだいなだ（精神科医・作家）さんが提案しているインターネット上に存在する仮想政党（ヴァーチャルな政党）に賛同して、私も老人党員になりました。

今の政治と自民党+公明党+保守党に不満が多い人はたくさんいるでしょう。私も今年の4月から始まった老人医療費の値上げ、薬代まで有料になったことには多いに不満で、この怒りをどこに持って行くのかわからなかった。

8月になって新聞の特集や投書に「老人軽視の政治を止めさせよう」という声があり、「老人党」のことを知った。インターネットで検索してみると、すでに数万件のアクセスがあり、書き込みも多かった。その中で「こんな政治にしたのは老人の責任だ」という意見にぐっときた。

老人党は老人の利益を守るだけでなく、社会のため老人に何ができるかを考える党です。入党の手続きも会費もありません。必要なのは世直しの志だけです。そこが気に入りました。インターネットでの世論作りはすでに『電子耕』

で実験済みです。これに賛同しないわけには行きません。

早速近く総選挙があります。今までの選挙では平和と民主を掲げていた候補者に投票していたが、大抵当選せず死票になっていました。それが結果として今の与党の政治を許していたのです。小泉内閣のアメリカ依存という病気を許し、ブッシュにイラク戦争という狂気を許していたこととなります。

とりあえず、今度の選挙では「老人をバカにした医療費値上げや年金切り下げ、銀行救済、イラク特別措置法・15億ドル支援など」を決めた与党には絶対に投票しない。選挙区で与党に対立している野党の当選しそうな候補に投票する。死票にはしない。今度の選挙で政権交代を実現する。

老人といえどもインターネットで意見が言える。65歳以上の人口が総人口の4分の1に近くなっている。その人たちの意見を政治に反映させることだ。「今が日本を変えるための、僅かしかないチャンスだ」という、なだいなだ氏の意見に賛成だ。老人は弱いものではないということを、ぜひ広く知らせたい。

老人党は検索して読んで見て下さい。みなさんにも、ぜひお勧めする。

ホームページのアドレスは

<http://yufuu.com/RJ/>

パソコンを持たない、インターネットのできない方は本で見て下さい。
なだいなだ『老人党宣言』筑摩書房 定価1000円+税 発売中です。

原田 勉

<http://nazuna.com/tom/>

<山崎農業研究所情報>

◇山崎農業研究所現地研究会（2003/10/11-12）「速報」（その1）

2003年度・山崎農業研究所現地研究会

「安全・安心な食べものの生産と消費者の選択」

10月11日（福岡県桂川町） 参加者15名。

桂川町の古野隆雄さん宅に集合。完全無農薬有機農業のアイガモ農法を現地見

学。その発想の豊かさに触れる。さらに、下記の講演があった。(桂川町民センター)

「アイガモ農業への取り組みの経過と課題」

——古野 隆雄氏 (完全無農薬有機農業者) *

要旨：田植え後3日目にアイガモを入れる。夜もそのまま放置。電気柵で外敵から守っている。カモのいるところに雑草はない。害虫被害もない。トビイロウンカも発生しない。分けつ数が多いのはアイガモの接触刺激という。土壌構造が変わり縦浸透も良くなる。カモがいると野生鴨も卵を生むようになる。

水田は畑地などにローテーションして地力を維持している。裏作に野菜を作る。イネは耐病性のあるものが有利。良いことばかりのこの農法も、桂川町でこれを行っている農家は2戸あるだけ。なぜ普及しないかは、今までの農法から新農法へは転換が面倒であることが主たる理由と思われる。ベトナム、フィリピンでもアイガモ導入が見られる。最近アメリカのテキサス大学、アイオワ大学でも研究を始めている。今後は直播き、生態系の多様化、省力化をさらに進めて環境保全型農業をおこないたい。(※1996年アイガモ水稻同時作で山崎農業賞を受賞)

10月12日(福岡市：博多パークホテル) 参加者15名と新聞関係者
シンポジウム「環境保全型農業と消費者の選択」

1. 「九州における「地産地消運動」の傾向と課題」

——梅木 利己氏 (九州国際大学教授)

要旨：1992年にリオデジャネイロでの国連の環境開発会議では持続的農業が議論された。関連加盟国の全てが環境に調和した農業に賛同した。日本の農水省も基本的に受け入れ、全農や全中の環境保全型農業調査を支援した。「環境保全型農業とは何か」は定義されなかったが、有機農産物販売や1988年頃から「地産地消」も認知されて、これらが地域活性化につながった。

以上の背景の中で農産物直販、学校給食事業も地域農業生産と結びつくようになった。九州ではいままでの「環境破壊型農業」への反省から「環境にやさしい農業」として減農薬や無農薬のアイガモ農業が出現した。新聞でも環境と農業問題を積極的に取り上げるようになった。有機農業の学習塾も開かれた。

地産地消運動が進められ、各種の食と農をめぐる多くのシンポジウムが開かれた。スローフード運動も佐賀県を中心に広がっている。今後は、稲作を「地産地消」にどう位置づけるかが課題である。(以下次号へ)

安富六郎

山崎農業研究所会員、土地利用学

y.noken@taiyo-c.co.jp

◇『21世紀水危機—農からの発想』を読む(その4)

——森林と流域水循環

森林の三機能・時代変遷・制御の限界／塚本 良則

長野県での「脱ダム宣言」をうけて、あらためて山にそして森林に目がむけられている。

塚本氏は、水循環と関連した森林の機能として、「緑のダムの機能」「緑の蒸発ポンプの機能」「緑の浄水機の機能」の三つをあげる。

緑のダムの機能は、森林斜面の土壌がもつ機能である。森林土壌は孔隙(すき間)に富むため、雨水は表層を流れ去ることなく地中に浸透し、速度の遅い地中流になる。この遅い流れが緑のダムの効果を発揮する。今日の森林は手入れ不足の人工林が多く健康度において問題はあるものの、量的には過去500年でもっとも豊かな状態にあるという。

緑の蒸発ポンプ機能は、森林の蒸発散機能である。降雨は樹冠にひっかかりそのまま蒸発したり、植物に吸収されて葉から蒸散したりする。森林の健全化のための間伐(間引き)は、木材の収穫だけでなく、それまで森林から蒸発散していた水が直接河川に流れることで、流量の増加をもたらす。三つの機能のうち、伐採や樹種の変更などにより、人間が最も大きく変化させることができるのがこの機能だ。

また、緑の浄水機の機能は、森林地が清浄な水を流出する機能である。降水に含まれる窒素やリンは植物に吸収されたり土壌に吸着・ろ過される。そのため、近年汚れている雨水は森林地によって浄化されることになる。

塚本氏は「現在、緑のダムが問題になるべきところは、都市」であるという。

日本では約半世紀前まで、表土の流亡したハゲ山が畿内や中国地方に広がっていた。戦後の大規模緑化によりハゲ山は消えたが、それ以前の洪水・土砂流出は現在では想像できない激しいものであった。緑が失われ、コンクリートとアスファルトで覆われた都市こそが現代のハゲ山なのである。

また、「都市と周辺の水汚染が、蘇えった森林に清浄水を求める時代」にもなっている。

都市では1日1人当たり上水を200～400リットル消費するが、それに要する森林は300～500平方メートルである。一方下水場での処理済の水を、森林からの清浄水で環境基準のBOD（生物化学的酸素要求量）3ppmに希釈するとすれば、さらに900～1,000平方メートル必要になる。上水用と下水希釈用あわせて1人当たり1,200～1,500平方メートルという計算になるが、関東6県でみればこれらに必要な森林面積の25%もない。

いずれにせよ、治山・治水・利水そして水質環境といったさまざまな水問題を考えるさいに、上述した三つの機能をもつ森林の視点はずすことができないのは確かだ。

日本の森林問題を考える場合、常に問題になるのが針葉人工林の管理・利用である。塚本氏は「[針葉人工林の]健康を維持するためには、畑作物と同様な人間の手助けが必要である」という。「脱ダム」論者が重視する緑のダムの機能を維持し増強するためには、広葉樹の混植も含めた適切な森林管理が欠かせない。

電子耕117号で宇根豊氏の「百姓仕事の水をつくる」を紹介したが、森林の三機能の発揮も現場で実際の山や森や林にかかわるひとびとの存在があつてのことである。はたして最近の山や森林への関心はそこまで視野に入っているのだろうか。その点が気になって仕方がない。

田口 均

山崎農業研究所会員、編集者

y.noken@taiyo-c.co.jp

塚本良則：1932 年生まれ。東京農工大学名誉教授。日本大学教授等を歴任。著書『森林水文学』（編著、文永堂）『森林・水・土の保全』（朝倉書店）

『21 世紀水危機—農からの発想』の内容・構成はこちらから

<http://www.ruralnet.or.jp/nbklib/book/03wadai008.html>

本のご注文は山崎農業研究所へ

http://www.taiyo-c.co.jp/public_html/yamazaki/yama_index.htm

<丹羽敏明の戦争体験>20、演芸中隊の発足

昭和 21 年 5 月 9 日、待望の演芸場が完成した。そして同月 11 日に柿(こけら)落としの公演が行われ、不鮮明な印刷ながらプログラムも作成され、観客に配られた。公演内容は、(1)序幕『のぞみ』1 景、(2)現代劇『復興の誓い』全 4 景、(3)作業隊の歌発表、(4)オペレッタ『花祭狸御殿』12 景。演劇経験者が出演者全員の顔を化粧してやり、元呉服屋さんが女形の着付けをするなど、何とか素人劇団の格好が整って公演に臨んだ。

その夜の隊員の模様を栗田まさみ氏の著書から引用する。『作業を終えて門を
入って来る隊員たちも心はずませている如く、その顔の明るく見えること、何時もなら疲れた足を引きずるように幕舎に帰ってしまうのに、今日は解散になると、各人それぞれ、アンペラを客席に敷く者、ドンゴロスに白墨で名前を入れておく者、板切れや紙などで予約席が作られていく。開演 1 時間前には、すでに予約席は観客で埋められ満員である。これから始まる演芸の話に花を咲かせているのか、仲のよい友だち同志が故郷の自慢でもし合っているのか、いつもなら口数少ない隊員たちの声が化粧をしている楽屋にまで聞こえて来る。シンガポールの夜の帳は静かにおりようとして、赤い夕陽のかげのみが、遥かに長く横に這っている。立ち見席も埋まり観客は数千人を超えているだろう。うすく南十字星の影が見え始めた。陽が落ちると暗くなるのが早いシンガポールの街のネオンが遠くあざやかな色を見せ始めた頃、オーケストラ・ボックスにはすでに楽団員がそれぞれ手製の楽器を持って待機する。出戸リーダーの五指が頭上にあがった。スポットがそのしなやかな指を突如照らし出した瞬間、タクトがおろされ、開幕のファンファーレが客席に流れ、南冥の夜空にこだまする。8 千人を超える見物人の手が一斉に拍手の嵐を起こした。』

その後、第2回公演から公演日数が2日間となり、第5回公演が6月29～30日に終了後、演芸部は独立の第80中隊として正式に承認された。編成は将校3名、装置部5名、演出部4名、演技部21名、音楽部11名、計44名。7月11日に中隊長名倉中尉から業務分担表が発表され、名実共に『リババレー劇団』が誕生した。この年、第19回公演が12月24～25日に終了、新年の1月1日に第20回公演が終了し、第21回公演の稽古が行われつつあった頃、突然私は演芸中隊へ入隊するよう誘われた。演芸公演が軌道に乗ってきたものの、人手が足りなくて困っているのでは来てほしいという。広報部長には演芸中隊長からすでに話は通じてあるということで、否も応も無く、1月15日に演芸中隊に配置替えとなった。

<中学生に環境問題をどう教えるか?・3>

酸性雨や水質測定など、従来やってきた環境測定ネットワークについて、総合的に環境問題の解決策を考えてもらうため、「みんなの環境新聞 ベイトリポート」の企画を始めました。

年会費1万円で4名分のボランティア保険に加入、お友達やご家庭で取材班を作ってください、ホームページ上の新聞の記事をレポートしていただきます。

記事として掲載されたリポートを送ってくれた人には、白神山地きみまち舎をはじめ全国の環境教育ステーションで使えるエコクーポンをお届けします。

特別企画 「こども環境議会を創ろう！」もやります。

詳しくは、<http://www.eco-care.net/beit/>
をご覧ください。

環境クラブ 増山 博康
<http://www.ecoclub.co.jp>

<農文協図書館情報> (10月20日更新)

◆9月の新規収蔵図書（ビデオソフト 102 巻収蔵）

<http://www.ruralnet.or.jp/nbklib/book/01new.html>

◆ニュース：『食品加工総覧』全巻完結 特集ページリニューアル

<http://www.ruralnet.or.jp/nbklib/sp/200310/news1.html>

農文協の加除式全集：地域資源活用『食品加工総覧』が完結しました。「食品加工総覧」は、農村での食品加工の実践書であり、地域づくりの手引き書であると同時に、「食品大百科」「食材大事典」にもなっています。

このほドルールネットの特集ページがリニューアルしました。まえがき、特徴、健康機能、読み方、ポイント、内容見本、事例一覧、事例の特徴と構成、カタログ、読者アンケート、索引検索などもりだくさんです。

<http://www.ruralnet.or.jp/taikei/kako/index.html>

◆話題の図書：著者：酒井與喜夫

『カマキリは大雪を知っていた 大地からの“天気信号”を聴く』

「カマキリが高いところに産卵すると大雪」は本当か？

どうして毎年生む高さが変わるのか、何を目安に決めているのか、それも雪の降る数カ月も前に……。積雪予報に挑み、自然の不思議に迫った民間研究者の記録。

<http://www.ruralnet.or.jp/nbklib/book/03wadai013.html>

農文協図書館 IT担当 原田太郎

<http://www.ruralnet.or.jp/nbklib/>

<編集後記・同人の近況報告>（10月9～10月22日）

原田勉は先週風邪で休みましたが、10月20日からは月・水は農文協図書館に、金曜日は近藤康男理事長の秘書として先生の自宅に通います。先生は視力が落ちたが、お元気でこの分では105歳のお誕生日（1月1日）が迎えられと思います。

◎お願い「<読者の声>の投稿規定・メールの書き方」

- 1、件名（見出し）を必ず書いて下さい。「はじめまして」は省略して、言いたいことを具体的に。
- 2、氏名・ハンドルネームは、文末ではなく始めのほうに。
- 3、1回1テーマ、10行位に。
- 4、ホームページを持っている人は、文末に URL を。
- 5、JIS X0208 規格外の文字（機種依存文字）のチェックを。

<http://www.chem.sci.osaka-u.ac.jp/networks/check/jisx0208.html>

インターネットで使えない丸数字や半角カタカナ、括弧入り略号などは文字化けの原因です。

◎投稿アドレス変更のお知らせ

電子耕への投稿アドレスは、発行人の変更に伴い、

y.noken@taiyo-c.co.jp

となっております。投稿される方はこちらのアドレスをお願いします。

次回 121号の締め切りは10月31日、発行は11月6日の予定です。

連休が入るため通常よりも早い締め切りになっていきますのでご注意ください。

最後まで読んで頂き有り難うございました。今後もよろしくお願い致します。

★『メールマガジンの楽しみ方』発売中

書名：岩波アクティブ新書 45 『メールマガジンの楽しみ方』

著者：原田 勉 定価：本体 700 円＋税 発行日：2002 年 10 月 4 日

発行所：岩波書店 ISBN4-00-700045-X

まえがき・目次・著者紹介・注文方法はこちら

<http://nazuna.com/tom/book.html>

『電子耕』から大切なお知らせ

<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

http://www.taiyo-c.co.jp/public_html/yamazaki/yama_mailmag.html

<本誌記事の無断転載を禁じます>

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 120 号

バックナンバー・購読申し込み／解除案内

<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

http://www.taiyo-c.co.jp/public_html/yamazaki/yama_mailmag2.html

2003.10.23（木）発行 山崎農業研究所&編集同人

<mailto:y.noken@taiyo-c.co.jp>

***** ここまで『電子耕』 *****